

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで取り組んでいます。	事務所に理念の掲示をされている。職員は毎月のミーティングで共有している。入居者と家族の面会は事務所でやっているため、家族は理念を確認することが可能となっている。	玄関にも掲示することにより、施設に訪問したお客様にも理念を見ていただくことが可能となります。「チームワークと日々の学習を重んじ利用者がその人なりの生きがいをもった価値ある日常生活を送ることができる」という素晴らしい理念を共有できることに期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止の為地域との交流は行っていません。	2023年10月にコロナクラスター、2024年1月にノロウイルスが発生したため、現時点では地域との繋がりを控えている。様子を見てレストランで食事をしたり、ボランティアの受け入れを行っていく予定である。	クラスターが発生したばかりなので大変だと思いますが、入居者様が外に出た際に地域の方とお会いした際には挨拶をする等コミュニケーションの向上に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止の為2カ月に1度職員のみで行っています。	2023年10月コロナクラスター、2024年1月ノロウイルスが発生したため、施設外のメンバーには運営推進会議の参加を控えている。議事録は市役所にはFAX、民生員・町長には郵送をしている。様子を見ながら会議にも参加していただく予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供事業所連絡会に出席しています。	1月24日のサービス提供事業所連絡会にリモートで参加した。運営上で困ったことは随時相談し、アドバイスをもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。	運営推進会議での検討、毎月のミーティングでの研修を実施している。現在身体拘束はないが、職員が無意識でスピーチロックに近い発言をしてしまうことがあり、管理者・主任から随時注意をしている。他職員からも気になる職員がいる時は管理者に話があるので注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。顧問より研修あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用契約書・重要事項説明書について御家族に説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に聞く機会を設けていません。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今月のミーティング時に意見を聞き運営に反映させています。	全体で話し合いをしなければいけない時は毎月のミーティングで話し合いを行うが、随時職員から管理者には相談、提案がある。「できない」ではなく「まずはやってみる」を心がけている。管理者は常に「働きやすい職場」を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員には施設長・主任がつきそい教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	事業所連絡会に年4回出席して意見交換を行っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること・要望等を聞くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	近況をこまめに連絡し面会時には近況報告を必ず行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題分析を行い必要な介護・支援内容を把握してサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に教えていただきながら支え合う関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者を支えていただけるように家族の働きかけを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人が面会に来ていただけるようお願いしています。	入居者の友人が来所され、一緒にお菓子を食べることがある。電話がかかってきた時は、本人に電話を繋げ会話をさせていただく。今まで行っていた病院に継続して受診をする方、美容院に家族と行っている方もいる。本人のことを一番に考え、臨機応変に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者が笑顔で話ができるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者や家族から相談があれば積極的に相談にのっています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人なりの生き方に合わせた介護・支援を心がけています。	「○○が食べたい」「席が狭い」などの意向があった時など、すぐに対応している。「職員本位」ではなく、すべて「入居者本位」で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人及び家族から今までの生活歴を聞き把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人なりの価値観・性格等を十分に把握して介護を行うよう心かけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画案を作成した段階で本人・家族と話し合いをして了解を得るようにしています。	職員から「〇〇をしてあげたい」など要望を随時もらっている。家族には面談し、ケアプランを説明してサインをいただいている。ケアプランは12項目あり細かくなっている。モニタリングは職員に確認してケアマネが作成をしている。	食事、ADL、排泄など12項目に分けて課題分析し、ケアプランを作成している点は素晴らしいと思います。ただ、長期目標と短期目標が一緒のため、別々にした方がもっと細かくケアプランを見直すことができるかもしれません。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況が変化すればその都度介護計画を作成し職員共有。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の状況に合わせた介護・支援及び要求に対応したサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染拡大防止のため行っていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連絡を密にして定期受診・不定期受診等状況に応じて家族の協力も得て行っています。	内科医とは常に連携が取れている。皮膚科・歯科などは基本的には家族に同行していただくが、職員が対応することもある。病状については内科医に頻りに相談をしている。訪問看護は週1回来てくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談できています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医及び医療連携室と連携を密に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて家族に説明をし医療機関の利用や他施設への移行について支援を行っています。	契約時には延命処置・救急搬送など看取りについての説明をし、希望を確認しているが、実際看取りの時期になると「やっぱり病院に」など希望が変わることもあるため、家族の気持ちの変化も受け止めている。職員には申し送りで見取りの対応を共有している。看取りの研修は年に2回実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で確認しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団及び南遠工芸と緊急時の支援体制が取れるように防災訓練に参加して災害に備えるようにしています。	年2回避難訓練・水消火器訓練を行っている。近隣の消防団と連携し、行っている。職員はグループラインで連絡をしている。隣にある会社には協力要請を行っている。一緒に訓練をすることもある。入居者も訓練時は職員と一緒に建物外にでる訓練をしている。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を大切に言葉掛けに充分配慮しています。	1日のスケジュール(体操、レクリエーション)はあるが強制ではない。職員の声かけは“家族”として方言を意図的に使用している。言葉かけが気になる職員に対しては随時注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重した介護を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の希望や考えを受け入れて個々のペースに合わせた介護支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は2カ月に1回実施し出来るだけ本人の希望も取り入れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が楽しく食事を食べています。	食事には特に気を付けている。盛り付け、色合いも工夫している。刻み、ペーストも少しでも見栄えが良いようにしている。1階は目の前が厨房のため、入居者から「今日は何？」と聞いてくれる。食後は下膳をしてくれる入居者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養・水分補給については出来ています。食事摂取量は毎食記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立できていない方は排泄の感覚を把握してトイレ誘導を行い必要に応じた介護を行っています。	今できていることは継続していただき、できなくなることを様子を見ながら支援している。基本は時間で誘導しているが入居者からの強い拒否がある時は時間をずらして介助している。便秘の人はすぐに内服ではなく、まずは食事、水分に注意をして経過観察している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の人は医師から便秘薬を処方してもらい排便状況を把握しながら服薬を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は2～3回に1回です。排泄で汚した人は状況に応じてシャワー浴を行っています。	基本は週2回。状況によって回数を増やしている。入浴が無理でも、できるだけ最期までシャワー浴ができるように対応している。常に体調を確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の睡眠パターンに合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゲーム・塗り絵・ドリル等の活動も取り入れて生活内容の充実を図るようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・日光浴・ドライブを行っています。	コロナなど感染状況をみて外出を行っている。季節行事としてドライブに行くこともある。週1回は施設前の駐車場を歩いたり、ベンチに座ったり、季節を感じて頂いている。家族はお墓参りなどに連れて行ってくれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる人はいませんのでお金を持っている利用者はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられる人はいません。家族からかかってきた時、会話が出来る人は話をしてもらいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の花壇に花を植え散歩時に見てもらい季節を感じていただいています。	共有部は無駄なものが置いていない。壁には季節感がある飾りを飾ってある。飾りには入居者が作ったちぎり絵、塗り絵などもある。外の花壇は職員と一緒に草取りをすることがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	面談室・多目的室を使い居場所作りに工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行っています。	入居時は自分で使用していた物を持ってきていただくよう依頼をする。居室電気は紐を引っ張るタイプで自分でつけたり消したりできるように自宅で使用していた紐を延長する方もいる。ベッドの設置場所、クローゼットなど各部屋に個性がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは職員と一緒に行うようにしています。		